

OVSYNCH 変法による定時人工授精と胚移植技術

【1 成果の概要】

- 1 GnRH 処理後 7 日目には 90%以上が黄体保有。
- 2 PGF₂ と hCG 投与後の排卵同期化 70%、卵胞発育障害 20%、他 10%は定時人工授精前の発情排卵。
- 3 hCG 投与後 16 ~ 18 時間の定時人工授精で受胎率 50%以上。
- 4 本法での発情後 7 日 ± 1 日のダイレクト移植で受胎率 55%。

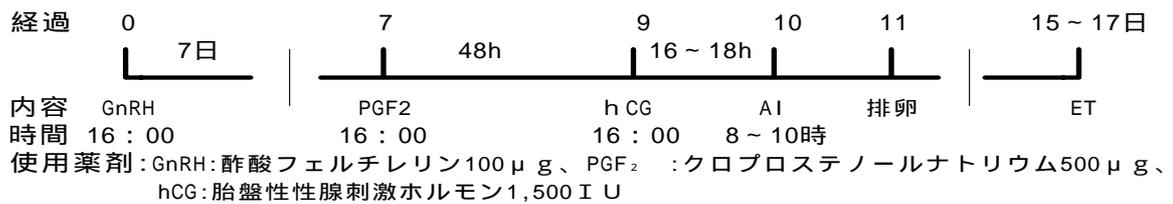


図1 OVSYNCH変法の薬剤投与プロトコール

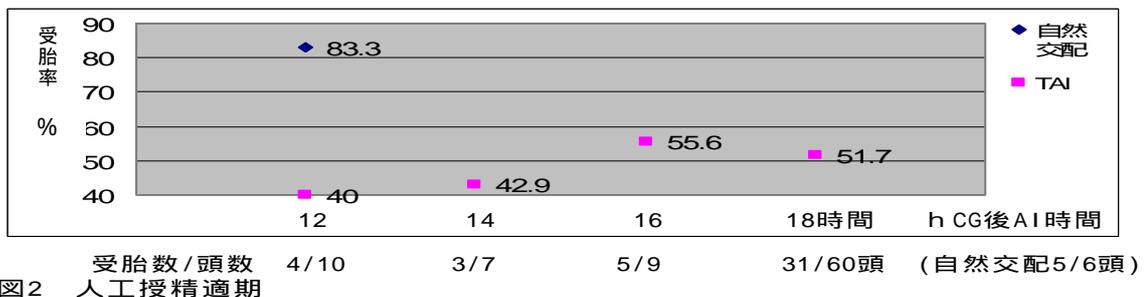


図2 人工授精適期

【2 効果】

- 1 この方法を放牧牛に活用すれば繁殖管理時間がほぼ半減。
- 2 分娩間隔短縮、分娩時期の調整、無発情牛の治療効果、AI 実施率の向上、休日 AI を減らせる。
- 3 1頭当り処理にかかる薬価 2,991円。

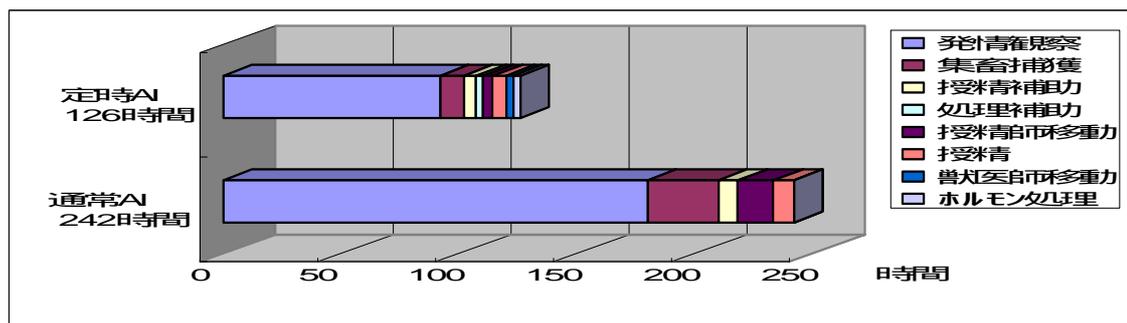


図3 通常の人工授精と定時人工授精の作業時間比較
(放牧50頭規模、授精期間90日、1回授精、発情同期化2グループ処理で算定)

【3 留意事項】

- 1 本法による発情発現は hCG 処理日の夕方から翌朝に集中します。
- 2 発情が前後にずれた牛は人工授精、胚移植ともに個体対応が必要です。
- 3 定時胚移植の受胎牛はスタンディング発情を確認した牛の移植が望ましい。